

# 腎臓病 食事制限者向け

# 都に災害備蓄米納入

## エコ・ライス新潟 3万食、12月に

コメ販売のエコ・ライス新潟（新潟県長岡市、阿部信行社長）は腎臓病で食事制限が必要な人でも食べられる災害備蓄食の地方自治体向け販売を本格化する。腎臓に負担を与えない低タンパク質の加工米3万食分を12月に東京都に納入する。腎臓病の患者団体と協力して首都圏の自治体に導入を働きかけている。都が率先して備蓄を決めたことで、他の自治体への広がりが期待できるといふ。備蓄用の加工米販売を拡大して増収を確保したい考えだ。



エコ・ライス新潟は災害備蓄米を東京都に3万食納入する

七月に都と契約した。都は低タンパク質のアルファ米を五年間で十五万食分備蓄する計画。初年度の二〇〇八年度は、エコ・ライスの「はんぶん米」を都内の四十九区市町の倉庫に六百食ずつ、二町に三百食ずつ備蓄する予定だ。

「はんぶん米」は熱湯や水でほぐすことで、避難場所などでも手軽に食べられる非常食。使用する改良品種米「香陽」は体に吸収されやすいタンパク質「グルテリン」の含量が他のコメの半分程度で、腎臓への負担が少ない。さらに

一度炊いたコメを洗うことで、同じく腎臓に障害がある人が多く摂取できないカリウムを半分、リンを三割減らした。

一食分の内容量は百㍉で、ほぐすと二百六十㍉になる。価格は一食分で三百九十九円。

同社は〇四年の中越地震を契機に開発してきた「はんぶん米」を昨年九月に発売した。だが低タンパク質を健康増進法上アピールできないため、店頭販売で販路を広げるのは難しい。このため首都圏の患者団体などと協力し、地方自治体に災害備蓄用の食料として採用するよう働きかけた。

新潟県のほか茨城県水戸市や群馬県高崎市などがすでに採用。発売以来五万食を販売してきた

が、今回の都の導入で今年末までにさらに五万食納入する見込み。

都内の自治体が個別に導入を検討する可能性も高いほか、都以外の首都圏自治体の導入も期待できるといふ。

同社はコメを消費者に直販しているが、米価は〇七年産が前年比で二割以上下落するなど収益を上げにくい環境になっている。

災害備蓄用の加工米の売り上げを全体の二割程度までに引き上げ、〇七年八月期の売上高二億八千万円を〇九年八月期には三億円程度まで増やしたい考えだ。